

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-201227

(43) 公開日 平成9年(1997)8月5日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 D 33/38			A 4 5 D 33/38	
A 6 1 K 7/00			A 6 1 K 7/00	L

審査請求 未請求 請求項の数6 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平8-31233

(22) 出願日 平成8年(1996)1月26日

(71) 出願人 000003090

東邦レーヨン株式会社

東京都中央区日本橋3丁目3番9号

(72) 発明者 竹内一郎

徳島県板野郡北島町高房字川の上8番地

東邦レーヨン株式会社徳島工場内

(72) 発明者 栗飯原 陟一

徳島県板野郡北島町高房字川の上8番地

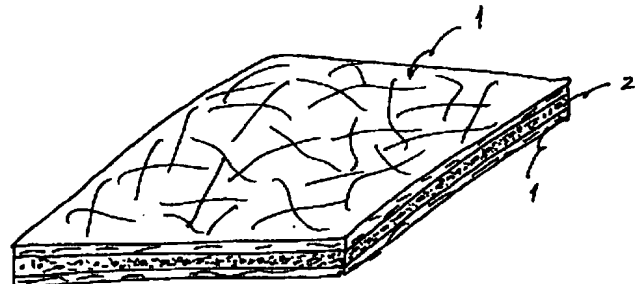
東邦レーヨン株式会社徳島工場内

(54) 【発明の名称】 美容シート

(57) 【要約】

【目的】 皮膚の乾燥を防止するための湿潤性物質を、持運びに便利で、かつ、長時間の使用に対し変質がなく、不純物の混入がない形態で保存することを目的とした美容シート。

【構成】 繊維シートにアルギン酸塩が担持してなる美容シート。



【特許請求の範囲】

【請求項1】繊維シートにアルギン酸塩が担持してなる美容シート。

【請求項2】複数の繊維シートが相互に部分固着し、該繊維シート間にアルギン酸塩が担持してなる請求項1の美容シート。

【請求項3】繊維シートが熱可塑性繊維を含む繊維の不織布である請求項1の美容シート。

【請求項4】アルギン酸塩を10乃至40重量%担持してなる請求項1の美容シート

【請求項5】美容シートの片面がフィルム又は樹脂でコートされている請求項1の美容シート。

【請求項6】周囲の端部を熱接着し、袋状の中にアルギン酸塩を封入した美容シート。

【0001】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】本発明は、人の肌の保湿に使用される美容シートに関するものである。

【0002】

【従来技術】人の肌は、皮膚組織から供給される水分及び脂肪によって、一定の潤い状態に保持されるが、体質・人の健康状態、気候・大気中の水分等によって、乾燥状態となり、皮膚が乾燥すると、外観が損なわれるだけでなく、様々な皮膚障害の遠因となる。このような皮膚の乾燥を防止するために、オイル、クリーム等の湿潤性物質を付与するのが普通である。

【0003】

【従来法における問題点】従来、皮膚に付与される保湿成分として、使用されてきた湿潤性物質は、通常ペースト状態であり、このため硝子、プラスチック等の容器にて保存していたが、このような保存方法では持ち運びに不便であり、しかもパックとして使用するとき、場所や動作に制限を受ける。また、長期間使用するうちに、変質及び不純物の混入するという不都合があった。

【0004】

【発明の目的】本発明の目的は、上記の不都合問題を解決し、定型性を有し、しかも、簡便に目的とする効果の得られる美容シートを提供するものである。

【0005】

【発明の構成】本発明は、繊維シートにアルギン酸塩が担持してなる美容シートである。

【0006】このような美容シートは、水分を含ませることによって、担持されたアルギン酸塩がシートの表面に侵出し、これを人の肌、髪に接触させることによって、皮膚や毛髪にアルギン酸塩が供給される。

【0007】その結果、表面をアルギン酸塩が被覆し、肌は潤いのある肌となり、髪は艶が増すという効果が得られる。さらに、この美容シートは通常は乾燥状態であり、軽量かつ、ハンディタイプあり、取扱性が高い。また、パックとして使用する場合、アルギン酸塩の

粘着性により肌にぴったりと密着するため、通常の生活動作をしながらパック効果を得ることができる。

【0008】本発明において、繊維シートは、不織布が好適であるが、通常化粧用等に活用されているウエップでも良い。繊維の種類は、木綿、絹等の天然繊維、合成繊維、レーヨン等の再生繊維及びこれらの混合品等であり、特に制限はされない。表面と裏面の繊維シートの組合せは任意であり、片面を肌触りの良い天然繊維のウエップとし、裏面を熱可塑性の合成繊維不織布として、両者を熱融着することもできる。

【0009】アルギン酸塩は、アルギン酸のナトリウム、カリウム、アンモニウム等の1価の塩類であり、これらの塩類は水溶性で有って、食品、医薬・化粧品の添加物として広く使用されている。アルギン酸塩は、通常は粉末状であるが、繊維状に賦形されているものでも良い。

【0010】アルギン酸塩の担持量は、10乃至40重量%（対繊維シート比）がよい。これは担持量が多いと、シートが固くなり柔軟性に欠け、少ないと使用時のアルギン酸塩の供給量が不足するからである。

【0011】繊維シートへのアルギン酸塩の担持は、繊維シート間にアルギン酸塩粉末を挟持し、ヒートシール方式、エンボスローラーによる点接着等によりアルギン酸塩の脱落が無いようにする。

【0012】本発明のシートを化粧用コットンの様に、定型サイズにカットされた物である場合は、外縁部のみ接着で袋状とし、中にアルギン酸塩を担持させることもできる。

【0013】シートの形状は、大型不定型サイズとして、任意に切断して使用することもでき、また用途に合わせて、顔面のマスク形状、手に合わせたミトンタイプ、足首から先の美容用に、靴下状、肘・脛用にはバンテージタイプに形成することができる。定型タイプの場合は、アルギン酸塩の脱落防止のために、シートの外縁部をヒートシールしても良い。

【0014】本発明の美容シートには、さらに香料、メント等の清涼剤、唐辛子エキス等の温感剤を併用添加することもできる。この場合、アルギン酸塩が担体となって、香料等を保持するため、芳香性に耐久性のある美容シートとなる。また、スクワラン等による保湿強化剤、コージ酸等の美白剤、アラントイン等の肌の再生剤等を併用添加してさらに機能性を増強することもできる。

【0015】本発明の美容シートを図面によって説明する。

【0016】図1は、本発明の美容シートの断面斜視図を示したものである。図2は、定型サイズにカットされた美容シートを示す図3は、別の形にカットされた美容シートを示す図4は、バンテージタイプのシートを示す。

【0017】図において、1は繊維シート、2はアルギ

ン酸塩を示す。図2、図3のようにカットされたシートの場合、外縁部3をヒートシールすると都合が良い。

【0018】

【発明の効果】本発明の美容シートは、水を含ませて所要部位を軽くこすったり、パッティングする事によって、肌にアルギン酸塩が付与され、潤を与えることができる。また、必要な部位に貼りつけてパックとして使用できる。しかも、使用後は乾燥しておけば、繰り返し使用が可能である。本発明の美容シートは、このままで、もしくは各種機能性物質、香料等の添加剤を付与し、各々所望する部位に使用することで、所望する繰り返し効果を得ることができる。

【0019】

【実施例1】目付50g/m²のレーヨン／ポリエチレン繊維＝50／50の不織布の上に、アルギン酸ナトリウム粉末を対繊維30重量%を均一に散布し、更に水をスプレーした上に同様の不織布を重ね合わせて熱風ゾーンを通した後に、エンボス加工を施し、本発明の美容シートとした（図1参照）。この物の厚さは1mmであり、アルギン酸塩の担持量は繊維重量に対し15重量%である。このシートを5cm²にカットして水を200%含ませた、カサツキのある肘部をヌメリア感が出るまで軽くこすり、その後10分間貼着使用した。その結果、シートを剥がした後も、アルギン酸ナトリウムによるヌメリは十分保湿効果を与えた。またこのシートは、乾燥し5回以上使用しても同様の効果を与えた。

【0020】

【実施例2】目付50g/m²のレーヨン／ポリエチレン繊維＝70／30のカードウェブの上に、アルギン酸ナトリウム粉末を対繊維20重量%を均一に散布した上に、ミントを加えた水をスプレーした上に同様のウェブを重ね合わせて熱風ゾーンを通した後に、エンボス加工を施し、本発明の美容シートとした（図1参照）。この物の厚みは1.2mmであった。このシートを雪焼けで *

* 炎傷を起こしている顔面に貼着使用した結果、シートを剥がした後もミントによる清涼消炎効果がみられた。

【0021】

【実施例3】実施例2のシートの片面に厚さ0.1mmのウレタンフィルムを接着して、片面にアルギン酸塩のヌメリができない美容シートとした（図2参照）。このシートをマスク状（図4参照）にカットし、水を含ませて充分ヌメリを与えた後、パックとして使用した。片面にアルギン酸塩が出ないので使用感も良く、パック効果も向上した（図4参照）。

【0022】

【実施例4】目付30g/m²のナイロン不織布シートを5cm²にカットした上に、アルギン酸ナトリウム粉末1gとアラントイン0.2gを中央におき、その上に同様のシートを重ね周囲の端部をヒートシールして本発明の美容シートとした（図3参照）。このシートに水を含ませヌメリを与えて角質の多い膝、肘に貼着使用した。その結果引き剥がした後も、アラントインの皮膚再生効果による相乗効果がみられた。

【0023】

【比較例1】アルギン酸ナトリウム粉末を対繊維5%とする以外は実施例1と同様に美容シートとした。このシートを用いて実施例1のシートと同様に使用した結果、保湿効果が不充分であった。

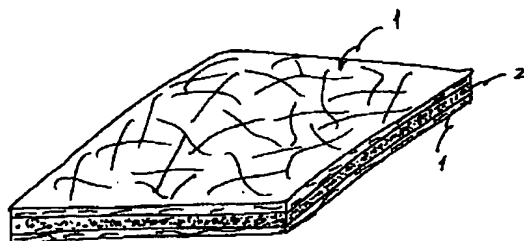
【図面の簡単な説明】

図1は、本発明の美容シートの断面斜視図を示したものである。図2は、定型サイズにカットされた美容シートを示す図3は、別の形にカットされた美容シートを示す図4は、バンテージタイプのシートを示す。

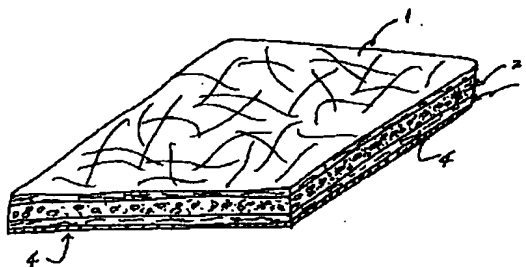
【符号の説明】

- 1 繊維シート
- 2 アルギン酸塩
- 3 外縁部
- 4 ウレタンシート

【図1】



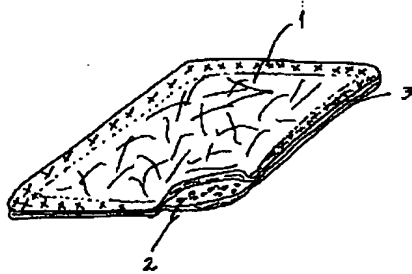
【図2】



【図4】



【図3】



【図5】



【手続補正書】

【提出日】平成8年4月18日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図1】発明の美容シートの断面斜視図を示したものである。

【図2】別の形態の本発明の美容シートの断面斜視図を

示したものである。

【図3】定型サイズにカットされた美容シートを示す。

【図4】別の形にカットされた美容シートを示す。

【図5】バンテージタイプのシートを示す。

【符号の説明】

- 1 繊維シート
- 2 アルギン酸塩
- 3 外縁部
- 4 ウレタンシート



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

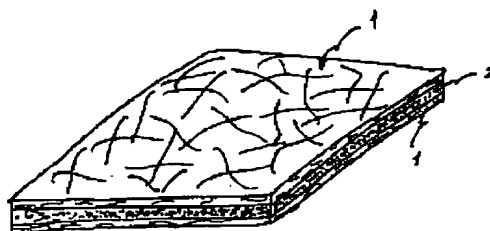
(11) Publication number: **09201227 A**(43) Date of publication of application: **05.08.97**

(51) Int. Cl.

A45D 33/38**A61K 7/00**(21) Application number: **08031233**(71) Applicant: **TOHO RAYON CO LTD**(22) Date of filing: **26.01.96**(72) Inventor: **TAKEUCHI ICHIRO
AIHARA TAKAICHI****(54) BEAUTY SHEET****(57) Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To form the skin having moisture and the hair having good luster when a beauty sheet used for moisture retaining of the human skin is brought into contact with the human skin and hair by carrying alginate on a fiber sheet.

SOLUTION: This beauty sheet is used by cutting the sheet to a fixed shape and size and is formed by depositing the alginate 2 on the fiber sheet 1. At this time, the beauty sheet is preferably formed by fixing the plural fiber sheets 1 to each other and depositing the alginate 2 between the fiber sheets 1 and more adequately depositing the alginate 2 at 10 to 40wt.% thereon. The beauty sheet may otherwise be formed by thermally adhering the ends of the circumference of the sheets to a bag form and encapsulating the alginate 2 therein. According to such beauty sheet, water is included in the sheet and a required part is lightly rubbed and putted, by which the alginate 2 is imparted to the skin and the moisture is imparted to the skin as well. The sheet is also usable as a pack by sticking the sheet to a necessary part.



COPYRIGHT: (C)1997,JPO